

令和4年度
1級電気通信工事施工管理技術検定
第一次検定 試験問題B

次の注意をよく読んでから解答してください。

【注意】

- これは第一次検定の試験問題Bです。表紙とも8枚、32問題あります。
- 解答用紙（マークシート）には間違いのないように、試験地、氏名、受験番号を記入するとともに受験番号の数字をぬりつぶしてください。
- 問題番号 No. 1～No. 2 までの2問題は、必須問題ですので全問題を解答してください。
問題番号 No. 3～No.10 までの8問題のうちから5問題を選択し解答してください。
問題番号 No.11～No.27 までの17問題のうちから15問題を選択し解答してください。
問題番号 No.28～No.32 までの5問題は、施工管理法（応用能力）の必須問題ですので全問題を解答してください。
- 以上の結果、全部で27問題を解答することになります。
- それぞれの選択指定数を超えて解答した場合は、減点となります。
- 試験問題の漢字のふりがなは、問題文の内容に影響を与えないものとします。
- 解答は別の解答用紙（マークシート）にHBの鉛筆又はシャープペンシルで記入してください。（万年筆・ボールペンの使用は不可）

問題番号	解答記入欄			
No. 1	①	②	③	④
No. 2	①	②	③	④
No. 10	①	②	③	④

当該問題番号の解答記入欄の正解と思う数字を一つぬりつぶしてください。

解答のぬりつぶし方は、解答用紙の解答記入例（ぬりつぶし方）を参照してください。

なお、正解は1問について一つしかないので、二つ以上ぬりつぶすと正解となりません。

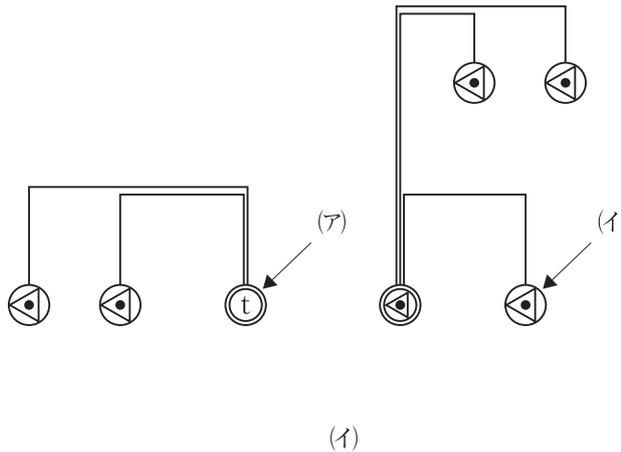
- 解答を訂正する場合は、プラスチック消しゴムできれいに消してから訂正してください。
消し方が不十分な場合は、二つ以上解答したこととなり正解となりません。
- この問題用紙の余白は、計算等に使用してもさしつかえありません。
ただし、解答用紙は計算等に使用しないでください。
- 解答用紙（マークシート）を必ず試験監督者に提出後、退室してください。
解答用紙（マークシート）は、いかなる場合でも持ち帰りはできません。
- 試験問題は、試験終了時刻（15時45分）まで在席した方のうち、希望者に限り持ち帰りを認めます。途中退室した場合は、持ち帰りはできません。

※ 問題番号 No.1 ~ No.2 までの 2 問題は、必須問題ですので全問題を解答してください。

【No. 1】 「公共工事標準請負契約約款」に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) 施工方法等については、公共工事標準請負契約約款及び設計図書に特別の定めがある場合を除き、発注者がその責任において定める。
- (2) 発注者が監督員を置かないときは、公共工事標準請負契約約款に定める監督員の権限は、発注者に帰属する。
- (3) 受注者は、設計図書において監督員の検査（確認を含む。）を受けて使用するべきものと指定された工事材料については、当該検査に合格したものを使用しなければならない。
- (4) 受注者は、工事の施工に当たり、設計図書の表示が明確でないことを発見したときは、その旨を直ちに監督員に通知し、その確認を請求しなければならない。

【No. 2】 下図に示す設備系統図において、(ア)、(イ)の日本産業規格（JIS）で定められた記号の名称の組合せとして、**適当なもの**はどれか。



- | | |
|------------------|---------------|
| (1) ドアホン | スピーカ |
| (2) ドアホン | スピーカ形インターホン子機 |
| (3) 電話機形インターホン親機 | スピーカ |
| (4) 電話機形インターホン親機 | スピーカ形インターホン子機 |

※ 問題番号 No.3 ~ No.10 までの 8 問題のうちから 5 問題を選択し解答してください。

【No. 3】 事務室におけるコンセント専用の低圧分岐回路に関する記述として、「電気設備の技術基準の解釈」上、誤っているものはどれか。

ただし、電線は軟銅線のものを使用し、その長さは、分岐点から配線用遮断器までは 2 m、配線用遮断器からコンセントまでは 7 m とする。

- (1) 定格電流 15 A の配線用遮断器に直径 1.6 mm の電線を配線し、定格電流 20 A のコンセントを 1 個取り付ける。
- (2) 定格電流 20 A の配線用遮断器に直径 1.6 mm の電線を配線し、定格電流 15 A のコンセントを 1 個取り付ける。
- (3) 定格電流 30 A の配線用遮断器に直径 2.6 mm の電線を配線し、定格電流 30 A のコンセントを 1 個取り付ける。
- (4) 定格電流 40 A の配線用遮断器に断面積 8 mm² の電線を配線し、定格電流 30 A のコンセントを 1 個取り付ける。

【No. 4】 需要率の計算式として、適当なものはどれか。

- (1) 需要率 = $\frac{\text{平均需要電力 [kW]}}{\text{最大需要電力 [kW]}} \times 100 [\%]$
- (2) 需要率 = $\frac{\text{平均需要電力 [kW]}}{\text{設備容量 [kW]}} \times 100 [\%]$
- (3) 需要率 = $\frac{\text{最大需要電力 [kW]}}{\text{設備容量 [kW]}} \times 100 [\%]$
- (4) 需要率 = $\frac{\text{需要設備個々の最大需要電力の総和 [kW]}}{\text{合成最大需要電力 [kW]}} \times 100 [\%]$

【No. 5】 スイッチング電源に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) スイッチング電源は、電力変換を効率よく行うことができる。
- (2) 直流チョッパは、直流電源を高頻度でオンオフ動作を行うことでほかの大きさの直流電圧に変換する。
- (3) インバータは、直流を交流に変換するのに使われる。
- (4) 直流昇圧チョッパの平均出力電圧は、0Vから電源電圧まで変えることができる。

【No. 6】 架空配電線路に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) がいしは、電線と支持物を絶縁するために用いるもので、使用電圧によって高圧がいしと低圧がいしがある。
- (2) 柱上開閉器は、高圧配電線路の事故時又は作業時に、その部分だけを切り離すために用いる開閉器である。
- (3) 柱上変圧器は、高圧配電線路の電圧を低圧に変えて、需要家に供給する変圧器である。
- (4) ケッチヒューズは、柱上変圧器の一次側に設置して開閉動作や過負荷保護用として使用される高圧開閉器である。

【No. 7】 排煙方式に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) 機械排煙方式は、特別避難階段の付室や非常用エレベータ乗降口ビー等に外気を送り込んで加圧することにより避難経路へ煙が侵入することを防ぐ方法である。
- (2) 機械排煙方式は、外部に面していない室でも排煙が可能である。
- (3) 自然排煙方式は、煙の浮力を利用して外気に直接面している排煙口より煙を外部へ排出する方法である。
- (4) 自然排煙方式は、天井が高く、排煙口を高い位置に設ければ排煙能力が上がる。

【No. 8】 粉末消火設備に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) 全域放出方式は、防護対象物の火災消火を目的に、粉末消火剤を防護対象物に直接放射して消火する方式である。
- (2) 移動式は、粉末消火剤の貯蔵容器等は固定されており、人がホースを持って火災場所まで移動しノズルを操作することで粉末消火剤を放射する方式である。
- (3) 第1種粉末、第2種粉末及び第4種粉末は油火災及び電気火災に適応し、第3種粉末は普通火災、油火災及び電気火災に適応する。
- (4) 固定式の粉末消火設備の起動方式には、自動式と手動式がある。

【No. 9】 土木構造物の基礎に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) 直接基礎では、基礎地盤と基礎底面を密着させるため基礎地盤の掘削完了後は、基礎地盤面をならしコンクリートなどでおおい、基礎地盤面の乱れやゆるみを防止する。
- (2) 杭基礎の工法には、工場製品の杭を用いる既製杭工法と現地に杭穴を掘削してコンクリートを打設する場所打ち杭工法がある。
- (3) 直接基礎は、地表から比較的浅いところに基礎地盤がある場合、直接その基礎地盤の上にくる基礎である。
- (4) アースオーガは、既製杭を打ち込むために使われる杭打ち機であり、振動機を杭頭にとりつけ、その振動と振動機の重量、杭の重量によって杭を地盤に押し込むものである。

【No. 10】 自動火災報知設備に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) 受信機とは、火災発生の信号、情報又は消火設備等の作動信号を受信し、火災の発生もしくは消火設備等の作動を関係者等に報知するものである。
- (2) 中継器とは、受信機が火災信号を受信した場合、ベル、ブザー、スピーカ等の音響又は音声で火災の発生を報知するものである。
- (3) 感知器とは、火災が発生すると、火災の熱・煙・炎を自動的に感知し、火災発生の信号・情報等を受信機、中継器、消火設備等に発信するものである。
- (4) 発信機とは、火災の発生を手動で受信機に発信するものである。

※ 問題番号 No.11 ~ No.27 までの 17 問題のうちから 15 問題を選択し解答してください。

【No. 11】 光ファイバケーブルの施工に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) 一定方向への延線が困難な場合や敷設張力が光ファイバケーブルの許容張力を超える恐れがある場合には、敷設ルートの中で光ファイバケーブルの8の字取りを行う。
- (2) 光ファイバケーブルの引張り端は、テンションメンバに張力がかかるようにし、ケーブル端面から浸水しないように防水処置を施す。
- (3) ノンメタリック光ファイバケーブルを使用する場合は、誘導雷サージ対策として、テンションメンバを接地する。
- (4) 光ファイバケーブルの許容曲げ半径を超えて曲げないように敷設する。

【No. 12】 屋内配線に使用する合成樹脂管の施工に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) CD管相互の接続は、適合するカップリングにより接続する。
- (2) 太さ 28 mm の硬質ビニル管を曲げるときは、その内側の半径を管内径の6倍以上とする。
- (3) PF管の露出配管において管を支持する場合は、サドルの支持点間の距離を2m以下とする。
- (4) コンクリートに埋込みとなる配管は、管をバインド線で鉄筋に結束し、コンクリート打設時に移動しないようにする。

【No. 13】 マイクロ波多重無線設備で使用される導波管の施工に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) 導波管内の防湿のため、乾燥空気充填用及び気密試験用として、通信機械室内の引込口付近にテーパー導波管を使用する。
- (2) 導波管のフランジ接続は、ノックピンを使用してズレが起これないように正確に接続し、その結合用ねじには、ステンレス製を使用する。
- (3) 空中線の振動吸収、温度膨張による収縮及び角度補正のために可とう導波管やフレキシブル導波管を使用する。
- (4) 導波管を通信機械室に引き込むため、適合する引込口金具を使用し、室内に雨水が浸入しないように防水処置を施す。

【No. 14】 たてものない でんき つうしん ききとう たいしん せこう かん きじゅつ てきとう
建物内での電気通信機器等の耐震施工に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) きき けんちくぶつ ゆか こてい いっぱんでき じしん ゆ か そうかい じょうそうかい
機器を建築物の床に固定するアンカーボルトは、一般的に地震の揺れが下層階より上層階の
ほうがおおきいため、上層階ほどきょうど たか のつか
方が大きいので、上層階ほど強度の高いものを使う。
- (2) きき せつち か のう かぎ ゆか お てんじょう およ かべ か きまくりよく
機器の設置は、可能な限り床置きとし、天井つり及び壁掛けは極力さける。
- (3) きき ちょうぶ こてい ちょうぶ し じざい けいりょう ま じきりかべ こてい
機器の頂部を固定する頂部支持材は、軽量間仕切壁に固定する。
- (4) たくじょうそうち じしん じ すいへい どう たくじょう らっか たいしんようひん こてい
卓上装置は、地震時に水平移動または卓上から落下しないように、耐震用品で固定する。

【No. 15】 せこうけいかく さくせい りゆうい じこう かん きじゅつ てきとう
施工計画の作成にあたっての留意事項に関する記述として、**適当なものはどれか。**

- (1) せこうけいかく かくじつ せこう しんこうほう しんぎ じゅつ さいよう けんとう くわ
施工計画は確実に施工できるものでなければならず、新工法や新技術の採用は検討に加え
か こ じっせき けいけん さくせい
に過去の実績や経験で作成する。
- (2) はつちゅうしゃ しめ こうてい さいてき けいざいせい あんぜんせい ひんしつ けんとう おこな こう
発注者から示された工程が最適であるため経済性や安全性、品質の検討は行わずに、その工
てい せこうけいかく さくせい
程で施工計画を作成する。
- (3) せこうけいかく こじん かんが ぎじゅつすいじゅん けいかく きぎょうない かんけい そしき かつよう ぜん
施工計画は、個人の考えや技術水準により計画することから企業内の関係組織の活用や全
しゃてき ぎじゅつすいじゅん けんとう のぞ
社的な技術水準による検討は望ましくない。
- (4) せこうけいかく けいかく ふくすう だいたいあん さくせい ひかくけんとう さいてきあん
施工計画は、1つの計画のみでなく、複数の代替案を作成しそれらを比較検討のうえ最適案を
さいよう
採用する。

【No. 16】 せこうけいかくりつあんじ じぜんちょうさ かん きじゅつ てきとう
施工計画立案時の事前調査に関する記述として、**適当でないものはどれか。**

- (1) じぜんちょうさ こうじないよう けいやくじょうけん はあく けいやくじょうけん かくにん げんば しょじょうけん は
事前調査には、工事内容や契約条件を把握するための契約条件の確認と現場の諸条件を把
あく げんばじょうけん ちょうさ
握するための現場条件の調査がある。
- (2) しざいひ ろうむひ へんどう もと うけおだいきん へんこう とりあつか かくにん げんばじょうけん ちょうさ がいどう
資材費、労務費の変動に基づく請負代金の変更の取扱いの確認は、現場条件の調査に該当す
る。
- (3) げんばじょうけん ちょうさ ちょうさこうもく おお だつらく さく
現場条件の調査は、調査項目が多いので、脱落がないようにするためチェックリストを作
せい
成しておくのがよい。
- (4) げんばじょうけん ちょうさ せいど たか ふくすう ひと ちょうさ ちょうさかいすう かせ
現場条件の調査の精度を高めるためには、複数の人で調査したり、調査回数を重ねるなど
により、こじんてきぐうはつてき よういん さくご ちょうさ も と のぞ ひつよう
個人的偶発的な要因による錯誤や調査漏れを取り除くことが必要である。

【No. 17】 工程管理で使われる工程表に関する次の記述(ア)～(ウ)の名称の組合せとして、
 適切なものはどれか。

- (ア) 縦軸に出来高比率をとり、横軸に日数をとって、工種ごとの工程を斜線で表した図表である。
- (イ) 縦軸に部分工事をとり、横軸に各部分工事に必要な日数を棒線で記入した図表である。
- (ウ) 縦軸に出来高比率をとり、横軸に工期をとって、工事全体の出来高比率の累計を曲線で表した図表である。

	(ア)	(イ)	(ウ)
(1) 出来高累計曲線		バーチャート	グラフ式工程表
(2) 出来高累計曲線		グラフ式工程表	バーチャート
(3) グラフ式工程表		バーチャート	出来高累計曲線
(4) バーチャート		グラフ式工程表	出来高累計曲線

【No. 18】 工程管理に関する記述として、適切なでないものはどれか。

- (1) 工程管理では、作業の手順、作業の進捗、作業の期間などの要素を図表化して、用途に応じて各種の工程表を作成し実施とその検討のための基準として使用する。
- (2) 工程管理では、経済性の確保、品質の確保や安全の確保よりも施工速度を優先し、機械の使用台数や作業員の動員数を増やしてでも最も短い工期で施工が行える工程計画を作成する。
- (3) 工程管理とは、最初に計画した工程と実際に進行している工程を比較検討して、差があるときは、その原因を追及、改善し工事が工程計画どおりに進むように調整を図ることである。
- (4) 最適工期とは、直接工事費と間接工事費の合計額が最小となる工期である。

【No. 19】 ネットワーク工程表に関する記述として、**適当なもの**はどれか。

- (1) 作業は矢線で表し、矢線の尾端が作業の開始、先端が作業の終了を示し、矢線の長さは作業時間を表す。
- (2) 作業の流れは先行作業、並行作業、サイクルの3つがあり、これにダミーを加えた4つの作業に分類して作業相互間の関連性を表す。
- (3) 作業の始めや終わりを意味する結合点は○で示し、○の中に結合点番号として正整数を記入し結合点番号は重複することができる。
- (4) ある結合点に入ってくるすべての作業が完了しないと、その結合点から出る作業には着手することができない。

【No. 20】 ツイストペアケーブルの測定試験項目である挿入損失に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 挿入損失は、ツイストペアケーブルが長くなるほど大きくなる。
- (2) 挿入損失は、送信信号レベルと反射信号レベルの比をデシベルで表したものである。
- (3) 挿入損失は、ツイストペアケーブルの温度が高くなるほど大きくなる。
- (4) 挿入損失は、電気信号の周波数が高くなるほど大きくなる。

【No. 21】 品質管理で使用される「散布図」に関する記述として、**適当なもの**はどれか。

- (1) データの存在する範囲をいくつかの区間に分け、それぞれの区間に入るデータの数を度数として高さに表した図である。
- (2) 2つの対になったデータをグラフ用紙の上に点で表した図であり、対になったデータの関係がわかる。
- (3) 不適合、クレームなどを、その現象や原因別に分類してデータを取り、不適合品数や手直し件数などの多い順に並べて、その大きさを棒グラフで表し、累積曲線で結んだ図である。
- (4) 問題とする特性と、それに影響を及ぼしていると思われる要因との関連を整理して、魚の骨のような図に体系的にまとめたものである。

【No. 22】 LAN 工事施工後にネットワークの確認のために使用する traceroute コマンド (Windows の場合は tracert コマンド) に関する記述として、**適当なものはどれか。**

- (1) コマンドを入力したパソコンから相手先のコンピュータまでの間を通過する各ルータの IP アドレスと応答時間が確認できる。
- (2) IP ネットワークを通じて遠隔地にあるコンピュータに安全にログインしたり、ファイルを転送したりすることができる。
- (3) IP アドレスやサブネットマスクの設定値、デフォルトゲートウェイとして設定されている IP アドレスなど自端末のネットワーク設定が確認ができる。
- (4) 自端末のルーティングテーブルの確認ができる。

【No. 23】 建設業を営む事業者が、新たに職務につくこととなった職長に対して行う安全又は衛生のための教育の内容に関する記述として、「労働安全衛生法令」上、**誤っているものはどれか。**

- (1) 作業方法の決定及び労働者の配置に関すること。
- (2) 異常時等における措置に関すること。
- (3) 現場監督者として行うべき災害補償に関すること。
- (4) 労働者に対する指導又は監督の方法に関すること。

【No. 24】 工事開始前に労働基準監督署長に対して計画の届出が必要なものとして、「労働安全衛生法令」上、**誤っているものはどれか。**

- (1) 組立から解体までの期間が 80 日間で、高さ 20 m、長さ 10 m の架設通路を設置する場合
- (2) 高さ 30 m の工作物（橋りょうを除く。）の建設の仕事を開始しようとする場合
- (3) 組立から解体までの期間が 90 日間で、つり足場を設置する場合
- (4) 組立から解体までの期間が 70 日間で、高さが 10 m の構造の足場を設置する場合

【No. 25】 ひらい らっか ぼうし たいさく かん き じゅつ ろうどうあんぜんえいせいほうれい じょう あやま
飛来・落下防止対策に関する記述として、「労働安全衛生法令」上、誤っているもの
はどれか。

- (1) さ ぎょう ぶつたい らっか ろうどうしゃ きけん およ ぼうもう せつ び
作業のため物体が落下することにより労働者に危険を及ぼすおそれがあるため、防網の設備
を設け立入区域を設定する。
- (2) た ろうどうしゃ じょうほう さ ぎょう おこな さ ぎょう おこな ぶつたい ひらいまた らっか
他の労働者がその上方で作業を行っているところで作業を行うときは、物体の飛来又は落下
による労働者の危険を防止するため、労働者に保護帽を着用させる。
- (3) さ ぎょう ぶつたい ひらい ろうどうしゃ きけん およ ひらいぼうし
作業のため物体が飛来することにより労働者に危険を及ぼすおそれがあるため、飛来防止の
設備を設け労働者に保護具を使用させる。
- (4) 2m の こうしょ ぶつたい とうか とうか せつ び ぼう かんしにん お
2m の高所から物体を投下するときは、投下設備を設け、監視人を置かなければならない。

【No. 26】 たか い じょう あし ぼ ひとかわあし ぼ およ あし ぼ のぞ さ ぎょうゆか かん き じゅつ
高さ 2m 以上の足場（一側足場及びつり足場を除く。）の作業床に関する記述として
「労働安全衛生法令」上、誤っているものはどれか。

- (1) ゆかざい たて じ すきま
床材と建地との隙間を 15 cm とする。
- (2) ゆかざい かん すきま
床材間の隙間を 2 cm とする。
- (3) ゆかざい し じ ぶつ と つ
床材を 3 つの支持物に取り付ける。
- (4) さ ぎょうゆか はば
作業床の幅を 40 cm とする。

【No. 27】 ろうどうしゃ ぎょう む じゅう じ とくべつきょうい く ひつよう ぎょう む ろうどうあんぜんえいせいほう
労働者を業務に従事させるにあたり特別教育が必要な業務として、「労働安全衛生法
令」上、誤っているものはどれか。

- (1) あ か じゅう たまが ぎょう む
つり上げ荷重が 0.5 t のクレーンの玉掛けの業務
- (2) こうあつ じゅうでんでん ろ てんけん ぎょう む
高圧の充電電路の点検の業務
- (3) あ か じゅう い どうしき うんてん ぎょう む どうろ じょう そうこう うんてん のぞ
つり上げ荷重が 1 t の移動式クレーンの運転の業務（道路上を走行させる運転を除く。）
- (4) さ ぎょうゆか たか こうしょ さ ぎょうしゃ うんてん ぎょう む どうろ じょう そうこう うんてん のぞ
作業床の高さが 8 m の高所作業車の運転の業務（道路上を走行させる運転を除く。）

※ 問題番号 No.28 ~ No.32 までの 5 問題は、**施工管理法（応用能力）**の必須問題ですので
全問題を解答してください。

【No. 28】 通信ケーブルの施工に関する記述として、次の①～④のうち「有線電気通信法令」上、
正しいもののみを全て挙げているものはどれか。

- ① 道路の縦断方向に通信ケーブルを架空配線する場合、その通信ケーブルの路面からの高さを 6 m とする。
- ② 横断歩道橋の上に通信ケーブルを架空配線する場合、その通信ケーブルの横断歩道橋の路面からの高さを 2 m とする。
- ③ 他人の建造物の側方に通信ケーブルを架空配線する場合、その建造物との離隔距離を 20 cm とする。
- ④ 架空通信ケーブルを強電流電線路の電柱に 4 径間連続して共架するので、当該電線路の電柱に設置されている高圧の強電流ケーブルとの離隔距離を 60 cm とする。

- (1) ①③
- (2) ①④
- (3) ②③
- (4) ②④

【No. 29】 法令に基づく申請書等の提出先に関する記述として、次の①～④のうち
適切なもののみを全て挙げているものはどれか。

- ① 自家用電気工作物の使用開始後に自家用電気工作物使用開始届出書を都道府県知事に提出する。
- ② 道路において工事を行うため、道路使用許可申請書を所轄警察署長に提出する。
- ③ ハロゲン化物消火設備の設置工事を行うため、工事整備対象設備等着工届出書を消防長又は消防署長に届け出る。
- ④ 航空障害灯の設置後に遅滞なく、航空障害灯の設置について（届出）を地方整備局長に届け出る。

- (1) ①②
- (2) ①④
- (3) ②③
- (4) ③④

【No. 30】 ガントチャートに関する記述として、次の①～④のうち適切なもののみを全て挙げているものはどれか。

- ① 縦軸に部分工事をとり、横軸に各部分工事の出来高比率を棒線で記入した図表である。
- ② 工期に影響を与える重点管理工程がわからない。
- ③ 各部分工事の所要日数がわかりやすい。
- ④ 各部分工事の進捗状況がわからない。

- (1) ①②
- (2) ①④
- (3) ②③
- (4) ③④

【No. 31】 墜落による危険防止に関する記述として、次の①～④のうち「労働安全衛生法令」上、正しいもののみを全て挙げているものはどれか。

- ① 深さが1.8mの箇所で作業を行うため、昇降するための設備を設ける。
- ② 踏み抜きの危険のある屋根の上では、幅が25cmの歩み板を設け、防網を張る。
- ③ 移動はしごは、幅が30cmのものとし、すべり止め装置を取付ける。
- ④ 折りたたみ式の脚立には、脚と水平面との角度が80度で、その角度を保つための金具を備えたものを使用する。

- (1) ①②
- (2) ①③
- (3) ②④
- (4) ③④

【No. 32】 酸素欠乏危険作業に関する記述として、次の①～④のうち「労働安全衛生法令」上、正しいもののみを全て挙げているものはどれか。

- ① 酸素欠乏危険場所における空気中の酸素濃度測定は、午前、午後の各1回測定しなければならない。
- ② 作業を行うにあたり、当該現場で行う特別の教育を受けた者のうちから、酸素欠乏危険作業主任者を選任する。
- ③ 地下に埋設されたケーブルを収容するマンホール内部での作業は、酸素欠乏危険作業である。
- ④ 空気中の酸素の濃度が18%未満の状態は、酸素欠乏である。

- (1) ①②
- (2) ①③
- (3) ②④
- (4) ③④